

## 小麦新品種「ミナミノコムギ」について

野中舜二・吉田美夫・北原操一・鶴 政夫  
田谷省三・荒木 均・福岡寿夫・牛藤英夫  
(九州農業試験場)

## 1. はじめに

ミナミノコムギは、昭和47年度より西海138号の系統名で試作されて来たが、昭和54年度、新品種として登録命名され、鹿児島県において普及に移されることになった。本品種は、鹿児島県以外の試作成績も比較的良好であり、特に熊本県でも有望視されたが、粒大が小さいこと、耐倒伏性が十分でないことなどのため、後続系統との比較で試験が打ち切られている。鹿児島県は気象条件や土壌条件にめぐまれない場合が多く、生育量の不足や登熟不良、病害などにより作柄が不安定となり易いので、他県で問題となったミナミノコムギの2、3の特性が、かえって有利にはたらいとと考えられる。

本品種の育成にあたっては、鹿児島県農業試験場の江知作物部長をはじめ、各県農業試験場、関係機関の方々に多大の御協力をいただいた。記して感謝の意を表する。

## 2. 来 歴

早生短強稈多収品種を育成する目的で、昭和36年度(昭和37年4月)農林水産省九州農業試験場において、西海113号を母とし、フジミコムギを父として人工交配を行い、昭和41年度雑種第5代で派生系統とし、その後選抜固定を図って来た。昭和43年度より羽系K-3として生産力検定予備試験、昭和44年度より特性検定試験、系統適応性検定試験に編入供試した結果、成績良好であったので、昭和47年度に「西海138号」と命名した。その後引続き生産力検定試験に供試するとともに、各県農業試験場における奨励品種決定調査の供試材料として配布し、地域適応性を検討して来た。昭和54年度より鹿児島県で奨励品種に採用され、普及に移された。

## 3. 形態的特性

叢性はやや直立型で、上位葉は下垂し、葉色はやや淡い。稈長は農林61号に比べて約7cm短く、稈もやや太い。穂は白稈、紡錘型で、農林61号と同程度かやや長く、1穂の着粒数が特に多い。穂数は農林61号よりもやや多く、最も多い部類にはいる。株開きは中位である。

## 4. 生態的特性

農林61号に比べて出穂期、成熟期とも4日程度早い早生種である。秋播性程度はIで春播型であり、茎立ちには農林61号よりやや早い。耐倒伏性は農林61号よりも強いが、極強ではない。

耐病性は、縞萎縮病に強く、赤かび病にも農林61号と同程度に強い。うどんこ耐病性は中で農林61号と同程度であるが、赤さび病にはやや弱いようである。鹿児島県の普及対象品種であるオマセコムギの縞萎縮及び赤かび耐病性弱、ダンチコムギの縞萎縮耐病及び耐倒伏性弱を改善している。穂発芽性は難である。

## 5. 品質

粒大はやや小さく、千粒重は農林61号より小さいが、充実良く、 $\ell$ 重は同程度である。製粉特性は、農林61号に比べて、製粉歩留、ミリングスコアともに同程度かややまさる。粉色、ブラベンダー特性は総じて農林61号に類似するが、わずかに薄力的である。めん用、菓子用、家庭料理用などに適する。

## 6. 収 量

育成地では農林61号に比べて標準栽培(116%)、多肥

第1表 ミナミノコムギの主要特性

調査項目		試験地		鹿児島県農試			
		九州農試 ミナミノコムギ	農林61号	ミナミノコムギ	オマセコムギ	ダンチコムギ	
生育特性	出穂期(月日)	4.13	4.17	3.27	3.28	4.3	
	成熟期(月日)	5.31	6.4	5.15	5.15	5.21	
	穂長(cm)	79	86	80	82	89	
	穂長(cm)	10.0	9.8	8.7	7.5	9.5	
	m <sup>2</sup> 当穂数(本)	341	315	425	389	414	
子実特性	収量(kg/a)	標準栽培	38.5 (11.6)	33.2 (10.0)	33.7 (10.6)	31.7 (10.0)	29.9 (9.4)
		多肥栽培	42.7 (11.1)	38.3 (10.0)	水田散播		
		ドリル播栽培	47.2 (12.2)	38.8 (10.0)	40.5 (10.3)	39.5 (10.0)	42.1 (10.7)
	$\ell$ 重(g)	7.49	7.52	7.70	7.77	7.57	
	千粒重(g)	29.8	33.4	31.3	35.1	30.5	
	外観品質	中上	中上	中上	中上	上下	
製粉特性	製粉歩留(%)	69.8	68.4	65.6	68.0	71.2	
	ミリングスコア	84.3	82.4	78.6	79.0	80.2	
	60%粉反射率(R554)	76.8	76.6	76.7	75.8	75.5	
耐病性等	縞萎縮病	強	やや弱	九州農試			
	赤さび病	やや弱	中	九州及び静岡農試			
	うどんこ病	中	中	長崎農試			
	赤かび病	やや強	やや強	九州、鹿児島県、高知山間農試			
穂発芽性	難	やや難	九州農試				
倒伏性	中~やや強	中	"				
播種性	度	I	II				

注 1) 九州農試は昭和43~53年度(多肥45, 46, 50~53, ドリル46, 50~53), 鹿児島農試は昭和47~53年度(水田散播53)の成績。

2) 製粉特性は53年度(54年産)について食糧庁検査実室で実施した。

栽培（111%）、ドリル播栽培（122%）のいずれでも安定して高い。11ヵ年を通じて農林61号より低収であったのは、昭和45年度のドリル播栽培のみであった。各地の試作成績は平均してほぼ標準品種並みであるが、南九州など暖かい地帯での成績がよい。

#### 7. 適 応 地 帯

各地の試作成績、特性などから考えて、南九州の強度の燐欠畑地を除く一般畑、転換畑、水田裏作に適すると考えられる。奨励品種採用県は鹿児島県で、当面2,000ha程度の普及が見込まれている。鹿児島県の奨励品種はダンチコムギ、オマセコムギ、ハヤトコムギの3品種であったが、このうちハヤトコムギは強度の燐欠畑地向きの晩生種である。ダンチコムギは赤かび耐病性が強く、最も普及しているが、やや晩熟で倒伏し易い。またオマセコムギは早生、強稈であるが、赤かび病に弱く、大粒のため登熟条件の悪い年には充実が不十分となって品質が低下する。ミナミノコムギは比較的小粒で充実良く、早

生、強稈、良質、多収で、赤かび病、縞萎縮病にも強く、両者の欠点を補っている。従ってミナミノコムギはダンチコムギ、オマセコムギの大部分及び農林60号その他非奨励品種の全部に置き換わるほか、今後増加が予想される転換畑、水田裏作に新たに作付けられ、広く普及するものと思われる。なお、強度の燐欠畑地については、適応性の調査が不十分のため、当面普及対象地域から除外する。

#### 8. 栽 培 上 の 注 意

耐倒伏性はダンチコムギよりはるかに強く、農林61号よりもやや強いが、十分ではないので、極端な多肥栽培は避けること。早生で莖立もやや早く、それだけ凍霜害を受け易いので、危険地帯では早播きを避ける必要がある。

#### 9. 命 名 の 由 来

南の暖かい地方に適することを表す。